

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 6月 14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200213		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑 長束		
所在地	広島市安佐南区長東西3丁目1-5		
自己評価作成日	令和4年5月16日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年6月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当苑では、開設以来「看取り」に真摯に取り組んでいます。「看取り」をさせて頂く時は、その人らしい安らかな最期を迎えて頂くために私たちにできる事は何なのかを考えるようにしています。今年に入り、立て続けに2件の「看取り」を行い、その折、家族の方より初めて「こんなに温かい介護をして頂いて・・・」とお礼の言葉を頂きました。「良くして頂いて・・・」はいつも頂く言葉でしたが、この「温かい・・・」という言葉を受けたのは初めてでした。職員一同これまでの努力が報われたという思いの中、しばし仕事を忘れて温かい気持ちに浸ることができました。これからも高齢者の避けて通れない「死」ときちんと向き合い、家族の方には「ほのぼの苑長束」に入居して「良かった」と思ってもらえる「温かな介護」に努めて参りたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

最近の取り組みとして第一に「理念の共有と実践」に深化が見られる。利用者の加齢やコロナ禍により笑うことが減り、共にしていた活動は難しくなっている。朝の申し送りや全職員が前日・当日ケアを検証する中で職員の育成に取り組み、今年は「笑い声の出る生活作り」に向け例年以上に工夫をしている。第二に「身体拘束をしないケアの実践」に深化が見られる。事業所はセンサーで利用者の睡眠状態を把握し、目が行き届く安心な見守りにより利用者の生活や行動に合わせた介護職員の労働環境も改善すべく家族同意を得て睡眠時見守り支援システムを導入している。第三に「災害対策」に深化が見られ、様々な条件の災害を想定し月初の夜勤者による防災訓練を含め日中の防災訓練を毎月実施して防災意識を高めている。

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝、申し送り時に開設時に職員全員で作成した理念を唱和し、職員一人ひとりが理念に基づいたケアができるように意識しながら業務を行っている。	開設時に策定した基本理念を実践上の立ち返るべき原点として位置付け、朝の申し送り時に唱和している。その全体申し送りとその後のユニット別申し送りで全職員が前日の振り返りと当日ケアの注意事項を検証・明記し、実践すべきケア内容を共有する中で理念の周知に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年もコロナ禍で地域行事は中止となったが、開所当初から町内会に入会し、地域行事にも積極的に参加している。近隣の大学の音楽療法実習、近隣の小学校の町探検の受け入れ施設となっており、利用者様が地域とつながりながら暮らせるよう地域との関わりを大切にしている。	コロナ禍で近隣散歩・買い物や自治会からの野菜の差し入れ等を除いて地域交流は自粛中である。自治会に加入し自治会便りや役員を介して地域情報の提供も受けている。コロナ前は地域行事への参加やボランティアを受け入れる相互交流や地域運動会等での世代間交流もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在は、コロナ禍ということもあり、受け入れていないが、今までは、認知症アドバイザーの資格を活かし、地域包括支援センターの要請があれば、認知症サポーター養成講座の受け入れ施設となり、認知症の方々の支援方法についてアドバイスしていた。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、知見を有する方をゲストでお招きしたり、広島市出前講座を活用するなどし、職員のケアの質の向上につながっている。また、地域の方からも勉強の場になると大変好評で、毎回多くの参加希望者がある。	最近の会議はコロナ禍のため書面による事前照会であり、参加予定の家族代表・自治会会長・民生委員・地域包括支援センター職員に情報共有のため議事録・事業所運営等の現状報告書を送付している。電話による意見聴取ではオンライン研修の案内等を通じた地域連携の情報提供もある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	日頃の施設運営について分からない時は、地域包括支援センターの方に尋ねたり、地域包括支援センターともネットワークでつながっており、様々なオンライン研修にも参加し、スキルアップにつなげている。介護保険課とも介護報酬改定時など適宜質問している。	地域包括支援センターとは運営推進会議の事前照会で情報を共有し、市町担当者とは日頃から相談や報告、行政主催の研修会へのオンライン参加等で協力関係の構築に努めている。又、認知症サポーター養成講座の受け入れ施設としての協力や徘徊ネット登録等の地域連携も展開している。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正委員会を設け、定期的に研修会を開催するとともに新人が入社時にも必ず研修会を行い、どんなことがあっても身体拘束は行わないという姿勢を都度全職員に伝えている。ほぼ1年を通して玄関を無施錠とし、閉鎖的な空間、抑圧的な暮らしにならないよう取り組んでいる。	医師・薬剤師も参加する定期的な適正化委員会での事例検証や研修会を通して職員は拘束をしない必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。県の補助で睡眠時見守り支援システムを導入している。日中は玄関を施錠せず見守り対応である。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止委員会を設け、定期的に研修会を開催するとともに新人が入社時にも必ず研修会を行い、高齢者虐待について正しい理解を深め、グレーゾーンの段階で摘み取れるように職員間で気付いたことは注意しあうなど日々努力を重ねている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について定期的に研修会を開催し、いざという時すぐに活用できるよう知識を深めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約又は改定等の際には、十分な時間を取り、わかりやすく説明することを常日頃から心がけている。その際、不安や疑問点が出た場合には、理解・納得されるまで話しあいを行っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様へこまめに利用者様の様子を報告・相談し、都度家族様の意見・要望を伺うようにしている。又、利用者様にも施設に対する要望・意見を伺うようにしている。頂いた意見は、ケアの中に取り入れたりと結果、利用者様本位の支援につながっている。	家族とは面会・介護計画更新時・運営推進会議・年1回の家族会・意見箱等で意見を把握し、職員は申し送りノート等で情報共有をしている。現在はコロナ禍の面会自粛の中、家族と連絡をとり迅速な対応に努めている。脱水防止のため家族から利用者の好きな飲み物を確認した例もある。	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のスタッフ会議には、必ず代表取締役が出席し、職員の意見や提案に耳を傾ける機会を設けている。また、管理者は、普段から積極的に職員と話をする機会を多く作り、悩んでいることはないか常にアンテナを張りながらよりよい職場環境の中で働けるよう努力している。	代表者と管理者は毎月職員会議に参加する他、毎日の申し送り、随時の個別面談等を通し管理者は職員の意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制を採っている。職員提案により安楽な座位を取りやすい機能的な車いす等、自立支援に資する福祉用具も導入している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員の日々の努力や実績・勤務状況等を把握し、職員の処遇への反映に努め、働く意欲が少しでも向上できるような工夫に努めている。		
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者や管理者は、職員一人一人のケアの質が向上できるように経験や習熟度に応じて学びの機会を確保できるようにするため、オンライン研修を活用し、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設とネットワークでつながっており、定期的にオンライン研修のお誘いもある。職員の習熟度に応じてオンライン研修にも参加し、学びの機会の確保とサービスの質の向上につなげている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前または入所時は、本人様と面談を行い、不安や要望等がないか必ず確認し、本人様の気持ちを受け止めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前から、こまめにご家族と電話でやりとりし、家族様の思いに耳を傾け、不安や要望等がないか確認をとり、不安を取り除いた上で施設入所できるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様が何を望んでおられるのか・何が必要なかを正確に把握し、その都度一番適切なサービスがなんなのかを多職種で協議し、見極めている。その中で施設内で対応が難しくなれば必要に応じて他のサービス利用の調整を行うなど柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人として、「共に過ごし、支え合う関係」を作る為に利用者様と時間をかけて関わり、より深く知る努力を重ねている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃から本人様の様子を面会や電話にて報告し、問題に直面したら家族様も交えて問題解決したりと入所後も本人様の生活を共に支え合う対等な関係を築いていけるよう努力を重ねている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で面会できない日が続いているが、窓越しの面会やオンライン面会などを行い、その関係を断ち切らないように工夫を重ねている。	コロナ禍による面会自粛の中、予約制ながら窓越し面会やオンライン面会によって利用者の約7割が面会可能となり、利用者・家族の気持ちに寄り添った支援をしている。利用者の思いに沿って昨年は実家に3時間滞在したり、手紙・電話を介した馴染みの関係継続にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲良くなられた利用者様同士が悩みごとを相談し合い、時に愚痴を言ったり、励まし合ったりと共に暮らしを楽しめるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も状況に応じてその後の相談や支援に対する相談に応じ、環境やその後の暮らしが継続ができるよう働きかけている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日、利用者様のこまかな変化を朝の申し送りで発表することを習慣化することで利用者様の思いに気付ける目を養い、日々のケアにつなげている。意思の把握が困難な場合は家族様に伺ったり、職員間で本人の視点にたった意見を出し合い少しでもその人らしい暮らしを続けられるよう努力している。	毎日の申し送り等で全職員が利用者様の生活の変化をきめ細かく申し送りノートや介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。発語なく表出困難な方が風船バレーで笑顔があれば、そこに出来るだけ風船を回す等、尊厳に向けた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前、そして入所後もご家族や利用者様に聞き取りを行いながら、これまで生きて来られた記録を辿り、少しでも利用者様にとってよりよい支援になるよう役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員一人一人が日々変化する利用者様の現在の心身の状況や残存機能などを把握する為にも毎日申し送り時、利用者様の様子を報告し、情報を共有するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族様の意向を基に多職種の意見も組み入れながらその方のできる事に注目し、日々の中で継続して実践できるプランを作成している。定期的にモニタリングを行い、状態に変化があれば都度ケアプランを見直すようにしている。</p>	<p>関係職種の意見も反映した計画原案を担当者会議で検討し、家族の同意を得て本案としている。計画作成担当者が3ヶ月を基本にモニタリングを行い計画を見直している。主体的な役割作りや尊厳に繋がるプラン立案に努めており、無理強いのない統一したケアを意識している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日の申し送りで日々変化していく利用者様の状態を報告しあい、情報を共有しながら、要望や状態の変化に応じて都度ケアプランを見直している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人様や家族様の状況に合わせて、インフォーマルサービスや医療保険サービスを活用するなど常にアンテナを張りながら柔軟な支援ができるように努力している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>日頃から地域の民生委員や自治会長の方々と積極的に交流を図るとともに地域新聞等を通じて地域の社会資源を把握し、必要に応じて活用している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医の往診は、月2回だが、必要時・緊急時には、常に連絡がとれる体制を整えている。又、必要に応じてかかりつけ医の紹介で専門医への受診を行っている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、全ての利用者は協力医を主治医としている。協力医から月2回、協力歯科医から週1回の訪問診療もある。専門医の受診は主に家族が同行している。非常勤・兼務の看護師2名の配置もあり日常的な健康管理等、適切な医療を受けられる体制をとっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>介護職員は、普段から利用者様の日々の変化を注意して観察するように心がけている。利用者様に状態の変化や異常がみられたらすぐに看護師を通じて適切な医療が提供できるような関係作りを日頃から構築している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院前には医療機関に本人様の情報・ケアについての正確な情報を提供している。又、長期入院になることで本人様の認知症の進行状況に悪影響と考えられる場合には、できるだけ早期に退院できるよう医療機関へ働きかけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に重度化や終末期における対応に関する指針を説明するとともに、その時を迎えた場合は再度意思確認を行っている。看取りを希望された場合は、かかりつけ医・看護師・介護職員・ケアマネジャーなどチーム全体で連携を図り、情報を共有し、その時に一番適切と思われる支援を提供している。</p>	<p>要望により看取りを行う方針である。契約時に「重度化した場合における指針」で了解を得ている。重度化した際には家族・医師等で話し合いを行い指針に基づき適切な支援を行う方針である。過去の看取り例や職員の経験値もあり、今年の看取りでは「温かい介護」との家族評価を得ている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>職員が急変・事故発生時に慌てず適切な行動がとれるよう定期的に研修を重ね、いざという場面で生かせるよう技術の習得に努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>毎月防災訓練、月初めは夜勤者全員で防災訓練を実施し、災害時、冷静に対処できるよう、又、災害後も業務を継続していく為に必要なのか参加者全員で考え、訓練を重ねている。又、地域の自主防災会に属し、協力しあえる体制を整えている。</p>	<p>様々な条件の災害を想定し、月初の夜勤者による防災訓練を含め、日中の防災訓練を毎月実施している。事業所は土砂災害警戒区域にあるが、地域の自主防災会会員であり協力体制がある。三日分の備蓄整備もあり、又、将来の有事に備えBCP（災害時の事業継続計画）も整備中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修を通して高齢者の尊厳とプライバシー保護について学び、都度理解を深めるとともに自分の業務を見つめ直す機会をつくっている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図っている。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも不適切な対応にはその場と翌朝の申し送りでも指導や気づきを促すが、職員間で話しやすい雰囲気もある。個人情報との問い合わせには責任者の確認を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段から利用者様と積極的に関わり、なにげない会話の中から願いや希望をくみ取り、把握に努めている。言葉で十分意思表示できない場合は、表情や全身での反応を注意深く観察しながら希望や思いの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合やスケジュールに合わせるのではなく、利用者様の生活リズムに合わせて、起床・入浴・食事・就寝時間も利用者様の状況に合わせて柔軟に対応しており、無理強いしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時、入浴時などは着用する服はご自分で決めていただいたり、朝、髪の毛をセットできるようにくしをお渡したりと施設にいてもおしゃれが継続できるような環境作りに配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は毎食手作りとし、季節の食材も取り入れ、見た目にも配慮しながら食事をおいしく食べて頂けるように配慮している。又、利用者様とともに食事の下準備・片づけなども一緒に行うようにしている。年に数回の行事には手作りの弁当を作り利用者様が喜んで頂ける工夫を凝らしている。	毎日の献立は季節や食材を勘案し職員による三食手作りである。誕生日には好みの物を提供し、自治会からの野菜の差し入れや箸等が食卓に上がることもある。おやつバイキングや行事の手作り弁当等、楽しみとなる工夫もある。利用者も片付け等の手伝いをして	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の食事量・水分量を記録し、全体を通して必要な食事や水分がとれているかを把握している。残食が目立つ時は、何が原因なのか職員間で情報交換を行いながら一人一人の状態に応じた栄養・水分管理を行っている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアでは、必ず仕上げ磨きまで行い、日頃から口腔内の清潔保持することへの重要性を認識している。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者様ごとで排泄記録を作成し、排泄パターンを探り、リハパン・パッドなどの使用が少しでも減るよう、又可能な限りトイレで排泄できるようにパッド委員会が中心となりリハパン・パッドの使用数が増減した原因を探りながら一人一人の状態把握に努めている。	排泄管理表でパターンを把握しトイレ誘導を基本としている。パッド委員会でその排泄状況に適したパッド類の選定や睡眠時見守り支援システムの導入や前方支持テーブルを設置し、それに寄りかかり腹圧をかけて自力排便を促す環境整備例等、状態像に合わせた自立支援を行っている。	
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便は、不穏に陥る原因となるものとしてとらえ便秘気味の方には、毎日の生活の中に腸トレ体操や運動を取り入れるなど下剤を使用しなくても排便できるように工夫している。下痢の方には、乳製品や繊維質のものを減らすなど、個々に応じた支援を行っている。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	気持ちよく入浴して頂けるように入浴時間・対応する職員ともに利用者様に合わせて対応したり、基本は、週2回以上の入浴ではあるが、皮膚状態に応じてシャワー浴・清拭などで回数を増やしたりと個々に応じた入浴の支援を行っている。	週2回以上の午前午後浴だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者の状態像によりシャワー浴や足浴で対応したり、差し入れの柚子で冬至の柚子湯を提供している。お風呂に消極的な利用者には、声掛けの工夫等行っている。	

自己評価	外部評価	項 目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>一人一人の生活習慣に合わせて、日 中の活動量、睡眠量を調整したり と無理のない支援をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている。</p>	<p>看護師は、薬剤師と連携を図り、 一人一人が服薬する薬・飲みあ わせ・副作用等について情報を共 有している。又、拒薬があった場 合はアドバイスを頂いたりと確 実に服薬できるように連携を図 っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援を している。</p>	<p>利用者様のできる事に注目しな がら一人一人が施設にいてもそ れが発揮できる場が確保できる よう環境を整えている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している。</p>	<p>コロナ禍でなかなか思うように 外出できていないが、毎日の苑 外散歩は日課とし、外気に触れ 気分転換を図って頂く事を大切 にしながら支援している。以前 は、イオンモールや美術館、外 食などの外出支援を日常的に行 っていた。</p>	<p>コロナ禍で外出は当面の間自 粛をしているが、天候が良けれ ば玄関の果樹で外気浴、近隣の 散歩や市内中心部へのドライブ 等を楽しんでいる。コロナの収 束状況により、従来実施してい た季節の外出行事や外食で「非 日常」を楽しんだり、日常的な 買物等で気分転換を図っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>現在、金銭管理ができる方はお られないが、ご家族よりお金をお 預かりし、利用者様から物品を 購入したいという希望があれば 都度、一緒に買い物に出掛けて いる。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>定期的にご家族から手紙が届く方もあり、本人様から希望があれば、手紙を書くお手伝いをしている。又、電話をかけたいと希望される際には、都度苑の電話を使用して頂きながら家族様との交流が継続できるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>苑庭にはさくらんぼや柿など実のなる植物や観賞用の花を植え、又、玄関先に沢山の花を植え、利用者様に季節を感じて頂くとともに花を見る楽しさを感じて頂けるように配慮している。又、できる限り窓や玄関扉を開け、新鮮な空気を取り込み、心地よく過ごせるように工夫している。</p>	<p>玄関アプローチに設えたプランターの花を眺めたり、庭の果樹から梅ジュースを作ったり、正月・七夕等、季節の移ろいが感じられるよう利用者とする行事の作品を飾っている。利用者がカーテンを全開にした明るい日差しで日々のリズムを整えたり、寒暖による皮膚感覚を大事にしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>利用者様一人一人がストレスなく施設での生活を継続させるために常に表情を観察しながら自分のペースで生活できる事を優先したケアに努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前には、必ず自宅で大事にしていたものがあれば持参されても構わないことを伝え、少しでも自室が居心地よい落ち着いた環境となるように配慮している。</p>	<p>居室にはベッド・チェスト等が備え付けられ、テレビ等、使い慣れた物や木彫りの置物等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。夜間排泄時の転倒防止等のため家族同意のもと、県の補助で睡眠時見守り支援システムを導入している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>リビング・廊下は、車いすや独歩で自由に行動できるように十分な広さを確保している。利用者様の身体状態に合わせて、色々なタイプの車いす・歩行器等を準備し、残存機能に合わせたケアを実践している。</p>		

V アウトカム項目( 東ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝、申し送り時に開設時に職員全員で作成した理念を唱和し、職員一人ひとりが理念に基づいたケアができるように意識しながら業務を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年もコロナ禍で地域行事は中止となったが、開所当初から町内会に入会し、地域行事にも積極的に参加している。近隣の大学の音楽療法実習、近隣の小学校の町探検の受け入れ施設となっており、利用者様が地域とつながりながら暮らせるよう地域との関わりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在は、コロナ禍ということもあり、受け入れていないが、今までは、認知症アドバイザーの資格を活かし、地域包括支援センターの要請があれば、認知症サポーター養成講座の受け入れ施設となり、認知症の方々の支援方法についてアドバイスしていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、知見を有する方をゲストでお招きしたり、広島市出前講座を活用するなどし、職員のケアの質の向上につながっている。また、地域の方からも勉強の場になると大変好評で、毎回多くの参加希望者がある。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃の施設運営について分からない時は、地域包括支援センターの方に尋ねたり、地域包括支援センターともネットワークでつながっており、様々なオンライン研修にも参加し、スキルアップにつなげている。介護保険課とも介護報酬改定時など適宜質問している。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正委員会を設け、定期的に研修会を開催するとともに新人が入社時にも必ず研修会を行い、どんなことがあっても身体拘束は行わないという姿勢を都度全職員に伝えている。ほぼ1年を通して玄関を無施錠とし、閉鎖的な空間、抑圧的な暮らしにならないよう取り組んでいる。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止委員会を設け、定期的に研修会を開催するとともに新人が入社時にも必ず研修会を行い、高齢者虐待について正しい理解を深め、グレーゾーンの段階で摘み取れるように職員間で気付いたことは注意しあうなど日々努力を重ねている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について定期的に研修会を開催し、いざという時すぐに活用できるよう知識を深めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約又は改定等の際には、十分な時間を取り、わかりやすく説明することを常日頃から心がけている。その際、不安や疑問点が出た場合には、理解・納得されるまで話しあいを行っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様へこまめに利用者様の様子を報告・相談し、都度家族様の意見・要望を伺うようにしている。又、利用者様にも施設に対する要望・意見を伺うようにしている。頂いた意見は、ケアの中に取り入れたり結果、利用者様本位の支援につながっている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のスタッフ会議には、必ず代表取締役が出席し、職員の意見や提案に耳を傾ける機会を設けている。また、管理者は、普段から積極的に職員と話をする機会を多く作り、悩んでいることはないか常にアンテナを張りながらよりよい職場環境の中で働けるよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員の日々の努力や実績・勤務状況等を把握し、職員の処遇への反映に努め、働く意欲が少しでも向上できるような工夫に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者や管理者は、職員一人一人のケアの質が向上できるように経験や習熟度に応じて学びの機会を確保できるようにするため、オンライン研修を活用し、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設とネットワークでつながっており、定期的にオンライン研修のお誘いもある。職員の習熟度に応じてオンライン研修にも参加し、学ぶの機会の確保とサービスの質の向上につなげている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前または入所時は、本人様と面談を行い、不安や要望等がないか必ず確認し、本人様の気持ちを受け止めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前から、こまめにご家族と電話でやりとりし、家族様の思いに耳を傾け、不安や要望等がないか確認をとり、不安を取り除いた上で施設入所できるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様が何を望んでおられるのか・何が必要なかを正確に把握し、その都度一番適切なサービスがなんなのかを多職種で協議し、見極めている。その中で施設内で対応が難しくなれば必要に応じて他のサービス利用の調整を行うなど柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人として、「共に過ごし、支え合う関係」を作る為に利用者様と時間をかけて関わり、より深く知る努力を重ねている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃から本人様の様子を面会や電話にて報告し、問題に直面したら家族様も交えて問題解決したりと入所後も本人様の生活を共に支え合う対等な関係を築いていけるよう努力を重ねている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で面会できない日が続いているが、窓越しの面会やオンライン面会などを行い、その関係を断ち切らないように工夫を重ねている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲良くなられた利用者様同士が悩みごとを相談し合い、時に愚痴を言ったり、励まし合ったりと共に暮らしを楽しめるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も状況に応じてその後の相談や支援に対する相談に応じ、環境やその後の暮らしが継続ができるよう働きかけている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日、利用者様のこまかな変化を朝の申し送りで発表することを習慣化することで利用者様の思いに気付ける目を養い、日々のケアにつなげている。意思の把握が困難な場合は家族様に伺ったり、職員間で本人の視点にたった意見を出し合い少しでもその人らしい暮らしを続けられるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前、そして入所後もご家族や利用者様に聞き取りを行いながら、これまで生きて来られた記録を辿り、少しでも利用者様にとってよりよい支援になるよう役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員一人一人が日々変化する利用者様の現在の心身の状況や残存機能などを把握する為にも毎日申し送り時、利用者様の様子を報告し、情報を共有するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族様の意向を基に多職種の意見も組み入れながらその方のできる事に注目し、日々の中で継続して実践できるプランを作成している。定期的にモニタリングを行い、状態に変化があれば都度ケアプランを見直すようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の申し送りで日々変化していく利用者様の状態を報告しあい、情報を共有しながら、要望や状態の変化に応じて都度ケアプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人様や家族様の状況に合わせて、インフォーマルサービスや医療保険サービスを活用するなど常にアンテナを張りながら柔軟な支援ができるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	日頃から地域の民生委員や自治会長の方々と積極的に交流を図るとともに地域新聞等を通じて地域の社会資源を把握し、必要に応じて活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の往診は、月2回だが、必要時・緊急時には、常に連絡がとれる体制を整えている。又、必要に応じてかかりつけ医の紹介で専門医への受診を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は、普段から利用者様の日々の変化を注意して観察するように心がけている。利用者様に状態の変化や異常がみられたらすぐに看護師を通じて適切な医療が提供できるような関係作りを日頃から構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前には医療機関に本人様の情報・ケアについての正確な情報を提供している。又、長期入院になることで本人様の認知症の進行状況に悪影響と考えられる場合には、できるだけ早期に退院できるよう医療機関へ働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期における対応に関する指針を説明するとともに、その時を迎えた場合は再度意思確認を行っている。看取りを希望された場合は、かかりつけ医・看護師・介護職員・ケアマネジャーなどチーム全体で連携を図り、情報を共有し、その時に一番適切と思われる支援を提供している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員が急変・事故発生時に慌てず適切な行動がとれるよう定期的に研修を重ね、いざという場面で生かせるよう技術の習得に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月防災訓練、月初めは夜勤者全員で防災訓練を実施し、災害時、冷静に対処できるよう、又、災害後も業務を継続していく為に何が必要なのか参加者全員で考え、訓練を重ねている。又、地域の自主防災会に属し、協力しあえる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修を通して高齢者の尊厳とプライバシー保護について学び、都度理解を深めるとともに自分の業務を見つめ直す機会をつくっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段から利用者様と積極的に関わり、なにげない会話の中から願いや希望をくみ取り、把握に努めている。言葉で十分意思表示できない場合は、表情や全身での反応を注意深く観察しながら希望や思いの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合やスケジュールに合わせるのではなく、利用者様の生活リズムに合わせ、起床・入浴・食事・就寝時間も利用者様の状況に合わせて柔軟に対応しており、無理強いしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時、入浴時などは着用する服はご自分で決めていただいたり、朝、髪の毛をセットできるようにくしをお渡したりと施設にいてもおしゃれが継続できるような環境作りに配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は毎食手作りとし、季節の食材も取り入れ、見た目にも配慮しながら食事をおいしく食べて頂けるように配慮している。又、利用者様とともに食事の下準備・片づけなども一緒に行うようにしている。年に数回の行事には手作りの弁当を作り利用者様が喜んで頂ける工夫を凝らしている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の食事量・水分量を記録し、全体を通して必要な食事や水分がとれているかを把握している。残食が目立つ時は、何が原因なのか職員間で情報交換を行いながら一人一人の状態に応じた栄養・水分管理を行っている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアでは、必ず仕上げ磨きまで行き、日頃から口腔内の清潔保持することへの重要性を認識している。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者様ごとで排泄記録を作成し、排泄パターンを探り、リハパン・パッドなどの使用が少しでも減るよう、又可能な限りトイレで排泄できるようにパッド委員会が中心となりリハパン・パッドの使用数が増減した原因を探りながら一人一人の状態把握に努めている。		
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便は、不穏に陥る原因となるものとしてとらえ便秘気味の方には、毎日の生活の中に腸トレ体操や運動を取り入れるなど下剤を使用しなくても排便できるように工夫している。下痢の方には、乳製品や繊維質のものを減らすなど、個々に応じた支援を行っている。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	気持ちよく入浴して頂けるように入浴時間・対応する職員ともに利用者様に合わせて対応したり、基本は、週2回以上の入浴ではあるが、皮膚状態に応じてシャワー浴・清拭などで回数を増やしたりと個々に応じた入浴の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>一人一人の生活習慣に合わせて、日中の活動量、睡眠量を調整したりと無理のない支援をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>看護師は、薬剤師と連携を図り、一人一人が服薬する薬・飲みあわせ・副作用等について情報を共有している。又、拒薬があった場合はアドバイスを頂いたりと確実に服薬できるように連携を図っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>利用者様のできる事に注目しながら一人一人が施設にいてもそれが発揮できる場が確保できるよう環境を整えている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍でなかなか思うように外出できていないが、毎日の苑外散歩は日課とし、外気に触れ気分転換を図って頂く事を大切にしながら支援している。以前は、イオンモールや美術館、外食などの外出支援を日常的に行っていた。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>現在、金銭管理ができる方はおられないが、ご家族よりお金をお預かりし、利用者様から物品を購入したいという希望があれば都度、一緒に買い物に出掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	定期的にご家族から手紙が届く方もあり、本人様から希望があれば、手紙を書くお手伝いをしている。又、電話をかけたいと希望される際には、都度苑の電話を使用して頂きながら家族様との交流が継続できるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	苑庭にはさくらんぼや柿など実のなる植物や観賞用の花を植え、又、玄関先に沢山の花を植え、利用者様に季節を感じて頂くとともに花を見る楽しさを感じて頂けるように配慮している。又、できる限り窓や玄関扉を開け、新鮮な空気を取り込み、心地よく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様一人一人がストレスなく施設での生活を継続させるために常に表情を観察しながら自分のペースで生活できる事を優先したケアに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前には、必ず自宅で大事にしていたものがあれば持参されても構わないことを伝え、少しでも自室が居心地よい落ち着いた環境となるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビング・廊下は、車いすや独歩で自由に行動できるように十分な広さを確保している。利用者様の身体状態に合わせて、色々なタイプの車いす・歩行器等を準備し、残存機能に合わせたケアを実践している。		

V アウトカム項目( 西ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑長束

作成日 令和4年6月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	59	提供するレクリエーションを楽しめていない利用者様もいる。	全利用者様が楽しめる行事の実行。	・行事時全員に声をかける。 ・一人1回は褒める。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。